

「 さ さ え 」

2013年 10月発行 情報誌 第45号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunit@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから
昼間頑張れる!



【発売元】ユニ・チャーム ヒューマンケア(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファフラ ソラ」

SORA



新発売
ハイブリッド型
車いす用クッション

【商品名】
アルファフラ
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

NPO福祉用具ネット設立 10周年を迎えて

NPO福祉用具ネット理事 歸山 清

NPO福祉用具ネットと私との出会いは、本法人が設立される前に遡る。大山事務局長がまだ社会保険田川病院訪問看護ステーションに在籍中で、坂田副理事長が九州日立マクセル(株)の新事業開発室(NB)室長に就任して間もなくの頃である。新規事業アイテムとして社外団体との共同開発として推進中の介護福祉機器(介護シャワー、床ずれ予防マットレス等)を検討していた頃である。この頃はまだ携帯電話も普及段階にあり、双方の連絡手段としては、もっぱら固定電話でのコンタクトが一般的であった。

机横の固定電話が鳴り出す。「リリリーン リリリーン」・・・受話器をあげ、社名・部署名を名乗ると、「社会保険田川病院訪問看護ステーションの大山と申します。新規事業開発室の坂田さんをお願いします。」の長い前ふりが始まる。当初は、坂田副理事長と同じ職場であり、坂田氏宛ての電話を直接取る機会も少なく特に気にとめることはなかったが、坂田氏の新事業開発室長就任に伴った席替え後も、大山氏からの坂田氏への電話連絡先は従来と変わらず、決まってアフター5(定時後)以降の時間帯になると、私の机横の電話が鳴り始める。電話を受けると、決まって例の長い文言を聞き、坂田氏に転送するのが役目となった。電話頻度が少なければ特に気に留めることもなかったが、とにかく印象に強く残るコール頻度に、ここで声しか知らない大山氏とその性格の一端を知ることとなる。

それから数年後(NPO福祉用具ネット設立2年目か?)のこと、筑穂町が経営する特別養護老人ホーム開設に伴った福祉機器導入に当たり、NPO福祉用具ネットが電動ベッドとP・Waveの全床導入(33床)を受注した。P・Waveとして初めての受注に関係者は喜んだが、納入期限までの期間は約6か月、受注は嬉しいものの坂田氏はあせった。

そこで、P・Waveの製品化に向けた本格的開発が急務となったことにより、坂田開発室長からの開発要請を受け参画を決意、この時点がNPO福祉用具ネットと私との出会いとなり、大山事務局長本人との直接の接触がスタート、NPO福祉用具ネットとの2人3脚での床ずれ予防ハイブリッドエアマット(P・Wave)の開発物語へ

と繋がる。

この頃のP・Wave試作品は、各展示会への出展に対応するのに最低限必要な基本的動作(エアセルの交互膨縮)はするものの、外面だけを装った全くの原理試作レベルにあり、ここから生みの苦しみが始まることとなる。

参画後暫くしてのこと、まだ介護福祉機器とは何たるや、床ずれの言葉自体は概念で耳にはしていたが、実際の症例を見たこともなく、また、どのように発症して進行するのもも理解できていない全くの土素人を、何の事前説明もないまま西日本国際福祉機器展に出展のP・Wave説明員として駆り出す。どのように対応したものかと悩みもしたが、見様見真似、聞き様聞き真似にて我流説明を行う。その会話の中で得たご利用者に近い方々のご意見、情報が、P・Waveの目指すべきところの礎になったと記憶しており、物造り前に現場の意見の重要性に気付かされたことは、以降の開発ステップへの取り組みに対して、貴重な体験であり、収穫となった。

まず、目標仕様(機能、性能、構造、各部品材料、組立性)とする具体的な仕様決めから検討が始まる。目標仕様の設定は、機能を満足することはもちろんのことではあるが、コストを踏まえた選定が不可欠である。その後、各構成部品の発注先の選定、打合せ、試作、評価、再試作、評価を何度となく繰返し、最終仕様に向けて完成度を上げる。また、並行して諸性能、機能、耐久性、安全性、臨床試験等、数多くの試験と膨大な評価時間を費やしP・Wave誕生につなげることができたことは、NPO福祉用具ネットとの2人3脚の開発体制があったればこそであり、以降、同様の開発体制で臨んだ「床ずれ防止用ハイブリッドマットレスSORA」、「尿吸引ロボ ヒューマニー」、「車いす用クッションSORA」に於いても例外ではなく、双方共に欠かせぬ存在にある。



シリーズ福祉用具研究会の活動報告 ～15周年に向けて～

第4回 「生きた情報源」
染矢利章
(介護老人保健施設リストロ若宮
理学療法士)

福祉用具研究会に参加するようになって2年ほどですが、出会いは西日本国際福祉機器展で活動されているのがきっかけでした。福祉機器展には、車椅子、リフトなどの機器の情報収集と家族や介護職員、利用者の方が楽になる便利グッズ的なものを探しに行っていました（最近、ほとんど展示がなくなりましたが）。たまたまNPO福祉用具ネットのブースにスライディングボードの使い方の冊子が置いてあり、話を聞いているうちに研究会のお誘いを受けたのが始まりだったように思います。

研究会に参加させていただいた感想は、商品開発等もされているだけあって、かなり熱心に探究されているなあと感じました。と言うのもベッド、マットなどのカタログに載っている商品名が頻繁に飛び交っており、話しについていけませんでした（今も似たような感じですが）。

福祉用具についての情報は、カタログ、ネットで検索、出入りの福祉用具専門相談員の方、福祉機器展に行くぐらいでした。だいたいの機能は分かっていますが、個々の利用者さんによって使用感、適合の為の工夫といった事が違います。実際に使用したり、紹介したりした方が身近にいないとそういったことまでなかなか分かりません。福祉用具を選ぶ時やその後のフォローに生きた情報が少ないと感じていました。そうした中、この研究会は、医療、介護・福祉系等の専門職の方々が参加されており、福祉用具やその他の関連事項に関して、いろんな職域からの意見や工夫が聞けたり、新製品や商品を持ち込んで頂いたりして、実際に体験できる機会があり、貴重な生きた情報源となっています。

運営の方々も大変だと思いますが、今後も継続して様々な発信をしていただければと思います。まだしっかりついて行けていませんが、生きた情報を生かせるようになっていきたいと思いますので今後ともよろしくお願い致します。

シリーズ

あきらめない生活改善！ 『道具・人・環境の工夫』

第4回 「夫婦愛 笑顔が戻ってきた」
酒井智恵美
(太陽シルバーサービス(株)
ケアマネージャー)

F美さんご夫婦は二人ともベッド上で過ごされています。部屋は別々ですが、ベッドを向かいあわせに設置しており、部屋の仕切りのドアは開放しているため、上半身を上げるとお互いの顔が見える環境です。ただ、二人が会話する事はありませんが・・・

私が担当になった時には、F美さんは、無表情で時々顔をしかめ介護に対して拒否があり、特にリハビリに対する拒否は強かったです。そんな時に、F美さんの耳に皮膚のトラブルが起きました。「いつも同じ方向を向いているのが良くないのではないか」という結論になりベッドの方向を変えました。その後F美さんの顔が一段と陰しくなり私達には理由が解りませんでした。ある日「顔が見えん」と言ったのです。そうですベッドの方向を変えた事でご主人の顔が見えなくなったのです。会話のない夫婦の関係を私たちは、重要視していなかったことに気づかせられたと同時に、何か心が温かくなりました。その後リハビリの内容を検討し、ベッド上での可動域訓練から、車椅子へ移乗してのリハビリへ、リハビリの場所は天気の良い時には庭で実施したり、屋内の仏壇の前や生け花・ひな壇の前等々場所を変えたりしながら行っていきました。リハビリの内容を変えた事により、リハビリへの拒否はなくなり、仏壇の前では手を合わせたり、生け花やひな壇をみて「きれいね」と言葉を発したり、笑顔が見られる様になりました。訪問介護で入浴をする時には、ご主人の部屋に寄るようにしてみると、手を握ったりご主人から「行っておいで」と声かけをされるとにっこり笑ったりと表情が出てきました。

改めて「リハビリとは何ぞや」と考えさせられました。あのままベッド上でリハビリを続けていたら、今頃はリハビリに対して、嫌悪感しか感じなかったと思います。リハビリの方法を変えるだけで、生活の質が変わったのです。介護保険では美容院への介助や映画鑑賞への介助は「生活に必要な介助ではない」との見解から認められませんが、そんな部分に意欲を引き出すポイントがある様に感じます。



特集

訪問看護と訪問リハの独りごと

NPO福祉用具ネット情報誌 「ささえ」 編集委員会

ささえ 44号では、訪問看護と訪問リハの方々にむけて貴重なご意見、質問をありがとうございました。そこで 45号では訪問看護と訪問リハの独りごとと題してお返事とさせていただきます。異職種同士、他人同士が気づいたこと、感じたこと、思ったことを「伝えあうこと」「受け止めあうこと」には、どのようにすればよいのでしょうか。自分を大切にしつつ、相手を大切に「伝えあい、受け止めあう」ことを日常生活で意識して実行しながらそれぞれの職場で生かせるようになってほしいですね。

訪問看護やケアマネとの連携の必要性についてのお返事

連携の件ですが、訪問のスタッフは異常な状況（身体、家族等）がある場合は、主治医、介護保険であればケアマネへの連絡は当然しています。又、それは業務の一環であると認識しています。その情報をどう生かすのかはケアマネがどのように処理するかで連携にも差がでてくるのではないのでしょうか。もちろん発見した当事者が、関係あると思えるスタッフに連絡するのがベストだと思います。仕事と雑事に追われてケアマネや主治医に連絡するのが精一杯の状況であり、今後気をつけていければと思います。気づいた人が提案していくのが一番ではないのでしょうか。

もっと福祉用具や住環境のことを学んで欲しいというご意見に対してのお返事

- ・福祉用具のすばらしさはわかりますが、導入に際し、本人や家族（介護者）のパーソナリティにより、導入が簡単だったり、難しかったりします。又、本人や家族が積極的になっても、ヘルパーさんが、人的介助を好まれる場合もあり実現できない状況もあります。介護保険の場合、良さがわかって利用したいけれど、限度額を考えると利用につながらないこともあります。
- ・ご指摘のとおり知らない福祉用具は一杯あります。もし気づかれたら担当セラピストに教えてあげてください。

訪問看護ステーション間の連携の必要性に関するご意見へのお返事

- ・訪問看護ステーション間の連携は当事者である私たちが一番強く感じています。数年前にその必要性を感じ在宅連絡協議会ができ、定期的に集まりがもたれています。
- ・訪問看護支援のよろず相談所として看護協会設立の訪問看護ステーション久留米、宗像がその役割を担われています。ご存知ない方は一度ご相談されてはいかがでしょうか。

リハビリのメニューについてのご意見へのお返事

リハビリメニューはそれなりに意味があって実施していますので寝た方のリハビリも見た目とは違う理由があるかもしれません。ただの関節可動域の訓練だけなのかもしれません。疑問に思われたら担当セラピストにリハビリの目的を聞いてみることをお勧めします。また、患者さんに役立つ実施してもらいたいことがあれば、担当セラピストに早く提案してあげてはいかがでしょうか。

訪問時間の変更に関するご意見へのお返事

訪問時間ですが、確かにヘルパーさんはきちっとしていると思いますし、それが本来の姿だと思います。訪問時間を変更していただく場合は、緊急事態への対応、調整、祝日の振替、マンパワー不足の方の訪問があげられます。変更をお願いする場合は変更して不安にならない人、変更が理解できる人等、利用者さんや家族の状況を把握しながらきちんと承諾していただいています。一人でも多くの利用者に満足していただきたいとの思いがあります。

最後に、次のような独りごとをいただいたので紹介します。



介護保険施設（特別養護老人ホームや介護老人保健施設など）であれば、福祉用具はその施設が準備するものであるはずですが、なかなか個人に合ったものが提供されている例は少ないのではないのでしょうか。開園から数十年たったところで、開園時から使っている歩行器などはかなりの使いづらさを感じますし、危険でもあります。残念ながら、個別に対応とまではいかないようです。そこは仕方がないと思う部分もあるのですが、最近増えてきた有料老人ホームや高齢者専用の賃貸住宅などは、居宅扱いですから福祉用具購入や貸与が可能ならず。しかしながら、そんな必要性を感じてもらえていない場合があるのではないのでしょうか。むしろ介護度の軽い方々が入居されている施設ですから有効な福祉用具もあるはず。施設側はもちろん、利用者さんと施設をつなぐケアマネジャーさんにも、そんな視点をもっていて、もしも必要ならば、専門職へつないで頂ければ、有効な用具の利用が出来るのではと思います。

そして、もうひとつ、危惧しているのは、最近、そのような施設入居の方には、福祉用具は施設が提供するべきだという意見もあるとかないとか？心配です。

編者の独りごと。

そういえば最近のことですが、有料老人ホームに行ったときのことを思い出しました。個室に入ったとたん違和感を覚えたのです。誰が設置したのか確認できていませんが、部屋中に手すりがあるのですが、その高さに驚きました。151cm程度の身長ですが、手すりはなんと、私の胸くらいの高さでもありました。入居者は夫（全盲）が170cm程度、妻（認知症）は150cm程度です。二人ともその手すりを使用することはなく、手すりの前には自宅から持ち込まれたソファが置かれている状態でした。高齢者の終の棲家のあり方が問われ、そのあり方は多様化しつつあるようです。NPO福祉用具ネットに係わっている専門家の皆さんの「ささえ」からこぼれ落ちてしまう生活の域がさらに広がってきているようですね。



今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その35)

NPO福祉用具ネット 副理事 坂田 栄二

(九州ヘルスケア産業推進協議会 コーディネータ)

シャワーヘッドは3か月後

ポンプの問題は解決した。次は、お客の好みがはっきりしているシャワーヘッドである。

これまで試作に使ってきたシャワーヘッドも優れたもので、松原のお気に入りである。数多くのメーカーの中から選び抜いたもので、手のひらにすっぽりと入る丸くてコンパクトなヘッドである。

シャワーヘッドは、高い精度が要求されるため、金型代はポンプに比べるとはるかに高い。当然、松原の手には負えない投資となる。

そこで、このメーカーにも電話で交渉することにした。しかし、相手は一流メーカーである。ポンプメーカーのように、うまく対応してくれるか判らない。それでも交渉するしかない松原は思い切って電話を掛けた。

ポンプメーカーに話した経験から、今回は流暢に説明が進んだ。

介護シャワーに使いたいという彼の申し出にそのメーカーは、すぐに納得してくれた。

“こりゃ、良いぞ！”

内心喜んでいるところに、そのメーカーは冷水のような言葉をかけてきた。

「今、もっと性能を上げるために金型を改造しているんですよ。お渡しできるのは3か月先になりますねー」

「えー！」

と松原の絶句。

松原はすぐにでも生産を始める気でいた。既に販売計画も立てていた。これは大きなたまげだった。

いつ加工できるの？ 今でしょ！

勿論、すぐにシャワーヘッドが手に入ってもそのままでは使えない。ヘッドの中に節水の仕掛けを組み込み、しかもシャワーがリング状に噴射するように孔の加工も必要だからだ。この加工だけでも1か月はかかる。入手が3か月先で、そこから改造を始めると、完成するのは4か月も先になる。

加工は、今しかない。今、加工できないと商品化できない。そこで松原はさらに食い下がった。

「古いタイプのヘッドでもいいのですが、在庫は何台分かはありますか？」

「金型が変わるので、生産はすでに止めており、在庫は全部出荷してしまいました。申し訳ありません。」

本当に申し訳ないと思っているのか？優しく聞こえる言葉だが、彼にとっては地獄の言葉にしか聞こえなかった。

まだお店の在庫はあるぞ

“無いものは、しかた無い。”

そこですぐに立ち直った彼がとった行動は、販売店に残っているシャワーヘッドを買い集める事だった。近くのホームセンターに電話をしてみた。

明るい声の店員さんが、

「もうメーカーさんからは入りません。でもあと2、3台だったら残ってますよ。」

おお、なんということか！メーカーにはなくても市場にはまだ残っているではないか。

他のホームセンターにも電話を掛けた。どこも、数は少ないが、いくつかずつ在庫していた。

松原はその日のうちに、数十台分をかき集めた。メーカーから直接買うのではないので、価格は高くなるが、彼にとっては背に腹は変えられない。こう

して材料手配の目途は立った。

手回しの良いカタログ作り

そのころ大山は、何をしていたかつて？
実はシャワー



のカタログに使う写真撮影を始めていたんですよ。松原の苦悩も知らないで、既に大山の頭の中では、介護シャワーが完成していたのだ。

大山は、大きな会議室を借り切って、テーブルの上に水色の毛氈を広げ、松原が作った試作品をこねくり回していた。

その脇には、急きよ呼ばれたカメラマンが大きなカメラを構えて待ち構えている。

迷ディレクター ただ今奮闘中

「ハイ、撮って！」

会議室に大山の声が響くたびに、カメラマンはシャッターを切る。しばらくすると、また“撮って”という指示が飛ぶ。まさに“大山ディレクター”と化していた。

介護シャワーは、複雑な構成であるから、なかなかポーズが決まらない。電源アダプターの長い100V用コード、電源アダプターからポンプまでの直流コード、さらに太くて長いホース。どれをとっても、長いものばかりで、テーブルの上はホースが“のた

打ち回って” 收拾が付かない。かなりの枚数を撮ったが、大山はそれでも満足しない。

ついには、コードやホースをそれぞれ束ねて独立させた。これでは、どのコードがどの部品につながり、ホースをどこに接続すれば良いのか、初めての人は写真を見ただけでは理解できそうにないが。

その時の写真が、下のものである。

「こんな扱いにくいものを、ようも作ったもんやねー」

大山のブツブツという独り言は止まらない。

おまけにコード類だけではなかった。コンパクトで丸いシャワーヘッドも、テーブルの上で転がり、倒れ、シャワーの噴出孔がちゃんと正面を向いてくれない。



勿論、大山は、このリング状噴射孔配列に特徴があることは承知しており、そのためにも何とか正面を向かせたいのだ。

しばらく部屋を出て行っていたが、どこからか粘土とテープを持って戻ってきた。その粘土をシャ-



ワーヘッドの下において、無理やり正面を向くように押し付ける。それでも不安定なので、ヘッドの後ろ側を透明テープで引っ張る。するとヘッドは

ちゃんと正面を向いた。

その瞬間、大山の顔は“ドヤ顔”になっていた。

キレイな手を探せ！

次は、使用状態の写真を撮らなくてははいけない。そのためにはシャワーヘッドを握る手が必要になる。「きれいな手の人は、誰かね・・・。さすがに私の

手じゃねー。」

と、自分の手を、ひっくり返したり曲げたりしながらしげしげと眺める。

「どこからか手タレ（手だけが出演するタレントのこと）を探しておいでよ。モデル代は払えないからね！」

横でカメラを覗いていたカメラマンに指示を出す。カメラマンも慣れたもので、

「ちょっと探してきませーす。」

と部屋を出て行った。

彼は、開発室の中を歩き回りながら、そ知らぬ振りをして女性の手を見て回っている。

女性に、いきなり“手を見せてよ”とはさすがに言いにくい。差し出された手を見て写真写りが悪そうな手だと、返答のしようがないからだ。

彼が探し求める手は、若くて張りがあり、細くしなやかで、爪もよく手入れされている手だ。特に細さとしなやかさは、握られたシャワーヘッドを小さく、優しく見せることができる。

手を貸して

開発室をぐるっと一巡した彼は、一人の女性の机の横に立ち、

「ちょっと... 手を見せてくれん？」

と、くちごもりながら、切り出した。彼女の手をもっとしっかり確認したかったからだ。

すると彼女は、とっさに後ろに逃げるようにイスを動かして、“サッ”と服の下に手を隠し、面食らったような顔をしながら、彼の顔をじっと見ている。

“これはまずいことになったぞ”と感じた彼は、「いやー・・・、実はね・・・」

彼は、断られるかもしれないと思いながら、“手タレ”を探していることを詳しく話した。

すると、意外にもあっさりとして笑いながら、

「なあんだー！ そんなことなん・・・。良いですよ。」

と、手を差し出した。その手は思った通り、細長くしなやかだった。“これはいけるぞ”と感じた彼は、「今、撮影中なんだけど、ちょっと手を貸してくれん？」

私たちは日頃、手伝ってもらうときに“手を貸して”と言って頼むが、まさに“手を貸して”とはこのことか。彼は、日本語の語源に触れたような思いで、妙に納得しながら、彼女を会議室へ連れて行った。

部屋には大山ディレクターが、いまか今かと待ち構えていた。

「忙しいのにごめんね。この丸い部分をこんな風に握って。そうそう！そのままじっとしといて。」
素晴らしいながら、自分でカメラのシャッターを切った。(次号へ続く)

事務局だより

創立10周年記念行事の報告

9月7日、NPO福祉用具ネット創立10周年を記念して、基調講演・シンポジウムを開催いたしました。

参加者は合計144名。参加者の内訳は、会員約60%、非会員40%でした。職種は福祉用具専門相談員や介護・看護職・リハ職、行政関係者からメーカー、さらに一般の方と幅広い分野から参加していただきました。アンケートにたくさんの意見を頂戴いただきました。参加していただいた皆様には大変満足していただいたようです。詳細は次号で改めてご報告させていただきます。

定款の変更認証がおりました。

25年度総会にて議決を得た定款の変更の手続きがすべて完了しました。8月13日に認証がおりましたので、その後、法務局などへの諸手続きをすべて済ませたことをご報告いたします。

主な変更点は、8つの事業の文章を整理して4つにまとめたものです。事業内容に変更点はなく今後の事業も基本的には従来と同じになります。

【7月から9月までの事務局の主なうごき】

7月 設立総会準備

- 7月2日 長崎大学出張
共同研究の打合わせのため
- 7月3日 別府リハビリテーションセンター出張
開発品モニター試験のため
- 7月4日 博多出張
九州ヘルスケア産業推進協議会設立総会
- 7月9日 熊本出張 くまもとバイオメディカル関連技術・市場調査研究会セミナーにて講演
- 7月10日 福岡県立大学福祉用具体験講座にて「排泄ケアの最前線」
- 7月12日 FJC協会見学会事業
大分県中津市 いずみの園施設見学
- 7月18日 介護施設訪問
共同研究の準備打ち合わせのため
- 7月20日 看護のキネステティクス®3日目研修会
開催
- 7月25日 福祉用具研究会にて、自動排泄処理装置の選び方発表
- 7月27日 施設見学 直方市開業医院
- 7月29日 久留米大学出張 医工連携マッチング
セミナー出席
- 7月30日 介護施設訪問
共同研究の準備打ち合わせのため

8月

- 8月2日 本郷先生面談 九州経済産業局との面談
に同席
- 8月3日 宮若市出張 シンポジスト打合せ
- 8月6日 東京出張 検証
- 8月7日 飯塚市出張 シンポジスト打合せ
- 8月9日 開発相談 熊本企業
- 8月12日 開発相談 大阪企業
- 8月13日 西日本国際福祉機器展打ち合わせ
- 8月14日 飯塚市出張 シンポジスト打合せ
- 8月16日 京都橘大学村田先生と打合せ
坂田副理事長ご母堂様お通夜出席
- 8月17日 葬儀参列
シンポジスト打合せ
- 8月18日 飯塚市出張 飯塚研究開発センター 医
工学連携基礎講座研修会参加
- 8月20日 午前 北九州法務局 定款変更手続き
午後 九州経済産業局 九州ヘルスケア
サービス部会出席
- 8月21日 篠栗町施設訪問
福祉用具研究会
- 8月22日 法務局 定款変更手続き
- 8月24日 FJC協会セミナー
- 8月28日 シンポジストとスライド打合せ
- 8月26日から27日 兵庫県西明石出張
自動排泄処理装置説明のため
- 8月30日 篠栗町施設訪問
創立10周年配布資料印刷発注

9月

- 9月2日 西日本国際福祉機器展セミナー企画書提出
- 9月3日 介護施設訪問
- 9月7日 創立10周年イベント開催
- 9月12日 北九州市出張 九州栄養福祉大学
開発品打合せ
- 9月14日 開発相談
- 9月18日から20日 東京国際福祉機器展出張
- 9月27日 動作介助とポジショニングフォローアッ
プ研修会
- 9月28日から29日 動作介助とポジショニング技術
習得コース研修会

【10月から12月まで確定している事業】

- 10月1日 ささえ45号発行
- 10月5日 FJC協会施設見学
- 10月10日 企業との打ち合わせ
- 11月19日 ヘルスケアサービス部会
- 11月21日 西日本国際福祉機器展設営
- 11月22日(金)から24日(日) 西日本国際福祉機
器展出展。排泄ケアセミナー&介護技術セミナーを
開催。セミナーの詳細はホームページでご覧いた
だけます。是非、会場にお越しください。